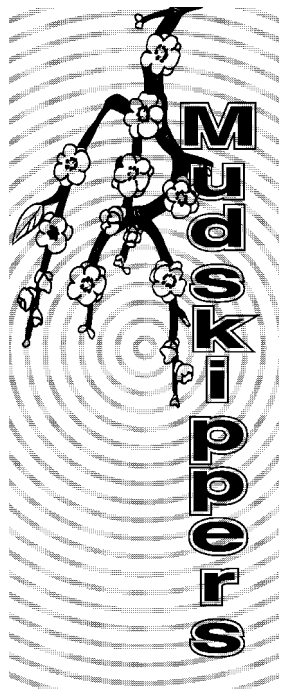


第28回むつごろう祭 慕進 ~ 燃え猛え2006 ~

メインステージ タイムスケジュール

前夜祭 10/6(金)		10/7(土)		10/8(日)	
18:00	学年対抗クイズ	9:00	開会式	9:00	合唱
18:25	ビデオ企画	9:45	現音 LIVE	9:40	軽音 LIVE
18:30	お笑いライブ 笑い飯 & とろサーモン	10:30	軽音 LIVE	11:05	TEAM FIGHT
19:00	学年対抗芸だし	11:30	(秘)	12:20	けやきの会
20:15	現音 LIVE	12:45	準備&リハ コンサート	12:30	フルバトル
20:45	抽選会	14:00	開演 一川嶋あい	13:30	ヒデトークショー
		15:15	部活対抗クイズ	14:30	ビンゴ大会
		16:15	○×クイズ	15:30	スケッチ表彰
		17:20	ミスコン ★ ダンスコンテスト ★ Jazz Dance, Starry(チア)	15:40	現音 LIVE
		20:30	現音 LIVE	16:40	6年生ステージ
				17:40	ミス医大 ★ マシマロ(19:00~)
				20:30	花火・フィナーレ

※三日間共に、予定終了時刻は、21:00です。あくまで予定ですので、時間が多少変わる場合もございます。



第19号
2006年9月発行
佐賀大学医学部
〒849-8501
佐賀市鍋島5丁目1番1号
http://www.saga-med.ac.jp/
新聞編集委員会
印刷/株昭和堂

今年のむつごろう祭は、10月7日、8日の2日間(6日前夜祭)にわたって開催されます。テーマは「慕進(ばくしん)〜燃え猛え2006〜」。「慕進」という言葉には、学祭の成功を目指してまっしぐらに進んでいこうという実行委員たちの願いが込められています。今年も有名人を多く迎え、あっと驚く企画盛りだくさんです。ぜひ遊びに来て、こころゆくまで楽しんで頂きたいと思います。(小池・日高)



前夜祭

日時 6日(金)
開場 17:45
お笑い芸人ライブ 18:30
会場 メインステージ
入場料 500円

豚汁&生ビール、ソフトドリンク食べ飲み放題!!(なくなり次第終了)先着500名様には焼きそばがあります!!
今年のゲストは「笑い飯」と「とろサーモン」の豪華2本立て!!年末恒例となった「M-1グランプリ」で毎年トップ争いを繰り広げ、お茶の間をにぎわしているあの笑い飯がやってきますよー!! 人気急上昇中のとろサーモンも大注目です!!
この2組が繰り広げる魅惑のライブ!!
絶対見逃さないでくださいね☆



笑い飯



とろサーモン

コンサート 今年川嶋あいが来佐!



川嶋 あい

日時 10月7日(土)
会場 メインステージ
開場 13時00分
開演 14時00分

「あいのり」のイメージソング「明日への扉」で70万枚のセールスを記録した「WASH」のボーカル川嶋あい。透明感のある歌声と路上ライブで鍛えられた抜群の歌唱力に期待が高まります!
入場無料です。たくさんの方のお越しをお待ちしています☆

執行部企画

一日目の夜に、エスパイ東が突然、現れる!!
いつ登場するかは、来てみてのお楽しみ!!
そして、二日目には、あいのりでも有名な「ヒデ」こと今澤徹男さんがやってくる☆ヒデが開くアプリカグッズのお店

フリーマーケット(フリーマーケット)やトークショーにぜひ遊びに来てください!!
日時 7日(土)
8日(日)
会場 メインステージ
会場 ヒデのお店
献血

10月7日の9時30分〜16時(昼休み12時〜13時を除く)に献血車にて400ml献血を行います。その他にも臓器バンク・骨髄バンク・アイバンクの登録の呼び掛けや募金活動、お菓子の販売もしますのでぜひ来てください。

映画

入場料は無料です
場所 臨床小講堂
日時 10月7日(土)
開演 14:00
対象 小児科の子供達

①「チキンリトル」
日時 10月8日(日)
開場 10:00
開演 10:30

②「子ぎつねヘレン」
開場 14:00
開演 14:30
対象 一般の方

ラジオ

会場内各所にスピーカーを設置し、学園祭のイベント情報・音楽・トークをお送り致します。豪華ゲストも多数出演予定です。乞うご期待!

フリーマーケット

今年もフリーマーケットを開催します。毎年大好評を得ている企画で、今年も50以上の出店者を募る予定です。衣類、雑貨、アクセサリなどお気に入りのものに出会えるかもれません。多数のご来場をお待ちしております。



8月6日、広島平和記念式典で、日米両国籍を持つ小学6年生が平和への誓いを述べた。父が米国人、母が日本人という状況はまったく異なるが、戦後の混乱期、同じように日本人女性と米国人男性(米軍兵士)との間に「戦争の落し子」という運命を背負って生まれた子供たちがいた。

両親を知らない彼らが育った「家」はエリザベス・サンダース・ホームとしてその名を知られている。創設者は初代国連大使の澤田廉三氏夫人であり、三菱財閥・岩崎久弥氏の長女でもあった澤田美喜氏(1901-1980)。周囲からのあらゆる誹謗中傷、圧力や偏見から子供たちを守り抜き、カトリック信仰に基づいた、深い人間愛と強靭な意志で体現したこの偉大な社会事業は、過酷な運命を背負わされた幼い子供たちに何を教えたのか。彼らが青春期を迎えた1960年代、日本では高度成長期を迎え、カークラー、カラータレピの3Cが家庭の新三種の神器といわれた。しかし、澤田氏が子供たちに教えた「愛、自由、平和」の精神は、そのような箱庭の幸福に収まる性質のものではなかった。子供たちのその後の運命は様々であったが、中には、当時、世界的な広がりを見せていた反戦平和運動に身を投じていった子供もいたという。

「世界中の国々や人々との間の架け橋となり、平和の扉を開くために一歩一歩、歩み続ける」という冒頭の小学生の誓いが、混血孤児たち一人一人の成長を、教育者として福祉者でもなく母として見つめ、世話をしてきた澤田氏の祈りと重なって聞こえたのは筆者だけか。(植原)

講演

プロ車いすダンサー

奈佐誠司さん



プロ車いすダンサー・奈佐誠司さん

高校生の頃からオートレーサーを目指し、バイクの事故に遭ったのは18歳の時。以来車いす生活をしていく。自由のきかない体に絶望し、自殺を図るが一命を取りとめた。そんな時出会ったのが車いすダンス。

東京のスクールに通い、プロダンサー・柴山道法氏と出会い、ユニット『Little Love』を結成。そして東京・六本木ヴェルファールでバリアフリーなダンスイベントを大成におさめた。現在では女性のダンサーも加わり更に磨きをかける。同時に『バリアフリー』をテーマに各地の学校、福祉施設等の講演活動に力を入れ、さらにタレントとしてメディアや舞台にも活動を広げ活躍中！大阪府在住。

演題 『ダンスで心のバリアフリーを！』

講演日時：8日(日) 開場14:00 開演14:30

場所：臨床大講堂

講演内容

バリアフリーダンスユニット『リトルラブ』のリーダー奈佐誠司は8年前よりダンスを始め、現在日本初のプロの車いすダンサーとして活躍しております。しかし、ここまでの道のりは、たやすくないことではなく、様々な壁(バリア)がありました。その壁を乗り越えることで、夢を持ち、前向きに強く生きていく、そんな実体験を中心に、プライベートでのエピソードを面白おかしく、また真剣に生徒に語りかけるなど、解りやすく楽しい講演会を、目指しております。

さらに、ダンス、パフォーマンスのショーや生徒自らが参加して頂ける車いすダンス体験なども取り入れて、新しいスタイルの人権講演会になればと考えております。また、この講演会を通じて何か感じていただければ嬉しいです。

学術

☆医学展

日時 両日
場所 看護棟2F講義室
今年のテーマは『ユニセフ』。ユニセフの佐賀県支部の協力のもとユニセフの活動への理解を深めます。

☆文化部展示 (看護棟1F~2F)
○室内学部 演奏会
日時 両日
場所 学生控室

○国医研 展示
日時 両日
場所 看護棟2F

○すずめの学校 出店
日時 両日
場所 看護棟2F

○LA部
日時 両日
場所 看護棟1F

☆医学書の古本市
日時 両日
場所 看護棟2F

☆スタンプラリー
看護棟内のスタンプラリーです。文科部の教室を回ってスタンプを全部集めると、素敵なプレゼントがもらえます！

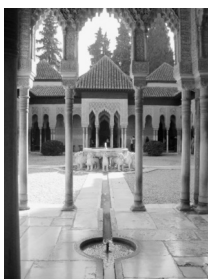
産直

日時 7日(土) 8日(日)
場所 メイン会場のテント内
時間 九時半から 売り切れしだい終了
毎年大盛況の産地直送テント！去年大人気だった...

たフルーツパフェ、今年もやります！ぜひ食べにいらしてください！他にも、恒例のあつあつ焼き芋(200円)、じゃがバター(50円)、市場から仕入れる新鮮な野菜・果物もあります。毎週ご近所の...

旅ごっこすごろく「最終回」たびのあお

「人生とは旅であり、旅とは人生である」とはドイトワールドカップ終了後、自身のサッカー人生にピリオドを打った中田英寿選手の言葉である。中田選手がどのような意味合いでこの言葉を世に送ったのか私には計り知れないが、私もこの言葉についてふと思うことがある。



私にとって旅とはあくまでも非日常であった。日常では自分が到底知りえない人々や言葉、その空気に触れる、そんな日常とは切り離されたひとかけらが旅であると思っていた。しかし、いくつもの旅を繰り返してみると、それが日常とは切り離せないものであると気づいたのである。例えば私は日本という国を飛び出すまで、四季のある日本がこんなにも美しい国であること、日本という国がいかに安全であるかということ、そして自分がまぎれもなく「日本人」であること、そんな大事なことを知らなかった。いや、知らなかったというよりは、頭ではわかってはいたつもりでもそれを自分の身に投影させることはできていなかったと言った方が正しいかもしれない。あくまでも旅しているその期間が非日常、永続的でないからこそ、日常という空間をなんのフィルターもなく驚くほど素直にみつめることができる。そう、旅は非日常でありながら、常に日常とリンクしている。



し振り返ってみたい。まだまだ訪れたことのない土地はたくさんあるけれど、日本にももちろん世界にも絶景といわれる風景は本当にたくさんあった。この「旅ごっこすごろく」でもいくつか紹介させていたのだが、どれも本当に思い出深いものばかり。日本国内の海で特にオススメしたいのは、沖縄県波照間島のニシ浜と宮古島の八重干瀬だ。私は後にも先にもあれほど美しい「あお」を観たことがない。海のおおとサングラスのあお、そして空のあお。いまでもあの「あお」の景色は忘れがたく、日常においても度々浮かんで涙が出そうになる。大げさに聞かせるかもしれないけれど、写真では伝わりえないあの景色を一度ぜひ観てみてほしいと思う。

海外研修

ハワイ大学医学部『Learning from the Patient』 Clinical Reasoning Workshop 体験記

医学科 4年 佐藤 奈緒



今回の Workshop の目玉と言っても過言ではない PBL。18名の学生を3つのグループに分け、それぞれのグループにハワイ大学の学生が1名、チューターが1名入って討論を行った。患者さんのケースが一枚ずつ配られ、病態を考える流れ自体は佐賀大学の PBL と変わりなかった。佐賀大学との大きな違いは、考える根拠となる Reasoning に対するこだわりである。私達が意見を出すたび、

学生3名に対しハワイ大学の学生、もしくは先生が1名ずつ進行役として参加した小グループで討論を行った。予め与えられた情報から仮説を立て、Need to Know を挙げる進め方は PBL と何ら変わりはない。CRE で大きく違うことは、最初の情報以外は進行役から提示されないことである。必要と思われる情報は、進行役に直接質問しなければ分からないのだ。

Medical Education Building の2階には、学生が模擬患者さんを相手に医療面接や身体診察の練習をする模擬診察室がある。アメリカでは患者さんが予め診察室で診察着に着替えて待ち、そこへ医者が来る形式をとっている。大きなベッドの周囲に必要な道具等が揃った診察室は一つの病室のよう、日本の無機質な診察室のイメージを吹き飛ばすものだった。ここで私の課題は、入室前の1分間で患者さんの簡単な情報を得たのち、15分以内で病歴を取り、身体診察をし、今後の検査や治療についての適切な

を作ることだった。私の診察で改善すべき点は数え切れないほどあった。しかし、同時に学生一人一人の持つ Strong Points も認めて下さったことが、私の大きな自信となっていた。また、チェックリストという形で患者さんの評価も受けられることができた。病歴を十分に取り、適切な身体診察を行ったかに加え、患者さんにも理解できる言葉を使い、精神的な面でケアができたかも評価の対象となる。これが PBL や CRE で扱う Paper Patients との大きな違いである。PBL や CRE で考える力を養い、最後はより実践的に対話法を学ぶという一連の流れが確立されていることが、ハワイ大学の医学教育を充実させている要因の一つなのだと思う。

私にはこの Workshop に参加するにあたり、三つの目的があった。一つ目は本場の PBL を体験し、今の自分に足りないものは何かを見つけることである。その結果痛感したことは、自分の知識の曖昧さと思考回路の乏しさである。大学では臨床科目をユニットに分けて勉強しているため、知識が断片化しやすい。PBL ではユニット以外の疾患も広く考えるように努めてはいるが、やはり十分ではない。枝葉は育っても、それを支える幹が未完成なのだ。また、佐賀大学の PBL では Reasoning に対するこだわりはハワイ大学ほど強くないように思う。第8日目に行った Case Mapping の際に強調されたのは、全ての事柄における『メカニズム』を考へることだった。自分の考へに根拠を持ち、問題解決の道筋を明確にすることが今の私達に足りないことなのではないだろうか。

三つ目は、佐賀大学以外の医学生と交流を深めることだ。大学のこと、医者を目指した理由、将来の目標、短い期間ではあったが、本当にたくさん語り合った。Workshop の間、私だけでなく学生達はそれぞれ悩みや問題を抱えていたが、それを支え合ったのもこの仲間だった。ハワイで私達を温かく迎え、熱意と親しみを常に持って接して下さった先生やスタッフの方々、ハワイ大学の学生の存在も大きかった。私がこのように素晴らしい日々を送ることができたのは、Workshop に関わっている仲間がいたからである。『Learning from the Patient』という名の Workshop だったが、ハワイで出会った皆さん、そして国を越えて集まった仲間全員から様々なものを学ぶことができた。医者になるという同じ目標に向かい、切磋琢磨し合える仲間ができたことを私は誇りに思う。日本、台湾、ハワイ、遠く離れているが、いつかまた再会できる日まで、この経験を胸に頑張りたい。

2006年8月10日から18日まで、私は米国ハワイ大学における「臨床推論」をテーマとしたワークショップに同じく医学科4年の仲間6名と参加した。このプログラムはハワイ大学 John A. Burns School of Medicine 医学教育部門の主催により開催されたものである。佐賀大学医学部

では2002年からPBLを臨床教育に完全導入したが、その準備段階よりハワイ大学との交流を深めており、毎年ハワイ大学からも学生を受け入れている。今回は佐賀大学、北里大学、高知大学、台湾から高雄大学、台北医学大学の学生計18名が参加した。

単なる疾患当り討論会ではなく、病態に対する考へ方を学び、練習する場であることを再確認した。練習なのだから間違ってもいい。グループで意見を出し合い間違いを訂正できれば、結果的にグループ全員の大きな収穫になるのである。患者さんの病態に対し、根拠のある考へを導き出す力がいかに重要かを学んだ。

学生3名に対しハワイ大学の学生、もしくは先生が1名ずつ進行役として参加した小グループで討論を行った。予め与えられた情報から仮説を立て、Need to Know を挙げる進め方は PBL と何ら変わりはない。CRE で大きく違うことは、最初の情報以外は進行役から提示されないことである。必要と思われる情報は、進行役に直接質問しなければ分からないのだ。

Medical Education Building の2階には、学生が模擬患者さんを相手に医療面接や身体診察の練習をする模擬診察室がある。アメリカでは患者さんが予め診察室で診察着に着替えて待ち、そこへ医者が来る形式をとっている。大きなベッドの周囲に必要な道具等が揃った診察室は一つの病室のよう、日本の無機質な診察室のイメージを吹き飛ばすものだった。ここで私の課題は、入室前の1分間で患者さんの簡単な情報を得たのち、15分以内で病歴を取り、身体診察をし、今後の検査や治療についての適切な

を作ることだった。私の診察で改善すべき点は数え切れないほどあった。しかし、同時に学生一人一人の持つ Strong Points も認めて下さったことが、私の大きな自信となっていた。また、チェックリストという形で患者さんの評価も受けられることができた。病歴を十分に取り、適切な身体診察を行ったかに加え、患者さんにも理解できる言葉を使い、精神的な面でケアができたかも評価の対象となる。これが PBL や CRE で扱う Paper Patients との大きな違いである。PBL や CRE で考える力を養い、最後はより実践的に対話法を学ぶという一連の流れが確立されていることが、ハワイ大学の医学教育を充実させている要因の一つなのだと思う。

私にはこの Workshop に参加するにあたり、三つの目的があった。一つ目は本場の PBL を体験し、今の自分に足りないものは何かを見つけることである。その結果痛感したことは、自分の知識の曖昧さと思考回路の乏しさである。大学では臨床科目をユニットに分けて勉強しているため、知識が断片化しやすい。PBL ではユニット以外の疾患も広く考えるように努めてはいるが、やはり十分ではない。枝葉は育っても、それを支える幹が未完成なのだ。また、佐賀大学の PBL では Reasoning に対するこだわりはハワイ大学ほど強くないように思う。第8日目に行った Case Mapping の際に強調されたのは、全ての事柄における『メカニズム』を考へることだった。自分の考へに根拠を持ち、問題解決の道筋を明確にすることが今の私達に足りないことなのではないだろうか。

三つ目は、佐賀大学以外の医学生と交流を深めることだ。大学のこと、医者を目指した理由、将来の目標、短い期間ではあったが、本当にたくさん語り合った。Workshop の間、私だけでなく学生達はそれぞれ悩みや問題を抱えていたが、それを支え合ったのもこの仲間だった。ハワイで私達を温かく迎え、熱意と親しみを常に持って接して下さった先生やスタッフの方々、ハワイ大学の学生の存在も大きかった。私がこのように素晴らしい日々を送ることができたのは、Workshop に関わっている仲間がいたからである。『Learning from the Patient』という名の Workshop だったが、ハワイで出会った皆さん、そして国を越えて集まった仲間全員から様々なものを学ぶことができた。医者になるという同じ目標に向かい、切磋琢磨し合える仲間ができたことを私は誇りに思う。日本、台湾、ハワイ、遠く離れているが、いつかまた再会できる日まで、この経験を胸に頑張りたい。

- 1、経緯
2、本場のPBL
3、CCU
4、Working with Simulated Patients
5、Workshopを通りかか
日程
8/10(木) Workshop 第1日目
オリエンテーション、Working with Simulated Patients
Welcome Dinner
8/11(金) Workshop 第2日目
PBL1、CRE1 (Clinical Reasoning Exercise)、身体診察の練習
Working with Simulated Patients
現在ハワイで研修中の日本人の先生方3名と会食
8/12(土)~13(日) Workshop 第3・4日目(休日)
Diamond Head、海水浴、Pearl Harbor 見学等(自由参加)
8/14(月) Workshop 第5日目
PBL2、CRE2
Student Presentations (各大学・国の医学教育について発表)
Working with Simulated Patients
Clinic 見学(眼科医 Dr.Waters によるレクチャー)
8/15(火) Workshop 第6日目
PBL3、CRE3
Communication Skills Exercise (学生どうして医療面接)
Working with Simulated Patients
8/16(水) Workshop 第7日目
PBL4、CRE4、Working with Simulated Patients
8/17(木) Workshop 第8日目
Case Mapping、Workshop Review、海水浴
8/18(金) Workshop 第9日目
Working with Simulated Patients、Graduation Dinner

PBLと医療面接の中間のようなものといえれば分かりやすいだろうか。ここで必要とされるのは、最初に考えた多くの可能性を肯定もしくは否定する材料を自分で見つける力である。PBLでは Need to Know に挙げられなかったことも配られた情報から得られるうえ、グループには6名もメンバーがいる。自分の考へが至らなくても、互いに補足し合うことは容易なのだ。しかし、CREでは一人一人の思考能力が如実に試される。いかに思考回路を明確にして、一步一步患者さんの問題に近づいていくか Reasoning の重要さをこころでも実感させられた。

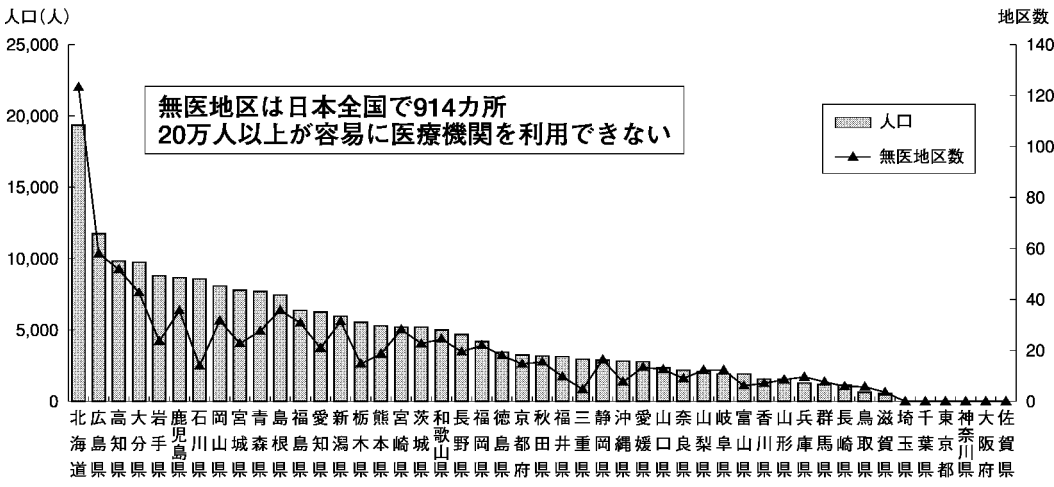
私が chest pain で倒れそうなくらい緊張した。入室前に得た情報から仮説を立て、課題を遂行しなければならぬが、目前にしているのは『模擬』とはいえ一人の患者さんである。模擬患者さんも病歴に沿った演技で本物の患者になりきっているため、「苦しい、不安」という訴えが手に取るように伝わってくる。SD (Scent Doctor) として助ける術を見つけたのだが、知識の不確かさ故に患者さんの問題を解決できない自分が腹立たしかった。診察の様子はビデオ撮影され、終了後に先生からの評価を受けた。やはり重要なのは何を考へて診察しているかであり、仮説を裏付ける道筋

り十分ではない。枝葉は育っても、それを支える幹が未完成なのだ。また、佐賀大学の PBL では Reasoning に対するこだわりはハワイ大学ほど強くないように思う。第8日目に行った Case Mapping の際に強調されたのは、全ての事柄における『メカニズム』を考へることだった。自分の考へに根拠を持ち、問題解決の道筋を明確にすることが今の私達に足りないことなのではないだろうか。

三つ目は、佐賀大学以外の医学生と交流を深めることだ。大学のこと、医者を目指した理由、将来の目標、短い期間ではあったが、本当にたくさん語り合った。Workshop の間、私だけでなく学生達はそれぞれ悩みや問題を抱えていたが、それを支え合ったのもこの仲間だった。ハワイで私達を温かく迎え、熱意と親しみを常に持って接して下さった先生やスタッフの方々、ハワイ大学の学生の存在も大きかった。私がこのように素晴らしい日々を送ることができたのは、Workshop に関わっている仲間がいたからである。『Learning from the Patient』という名の Workshop だったが、ハワイで出会った皆さん、そして国を越えて集まった仲間全員から様々なものを学ぶことができた。医者になるという同じ目標に向かい、切磋琢磨し合える仲間ができたことを私は誇りに思う。日本、台湾、ハワイ、遠く離れているが、いつかまた再会できる日まで、この経験を胸に頑張りたい。



「無医地区の居住人口」と「無医地区数」(平成11年6月現在)



家庭医療セミナー in 五島

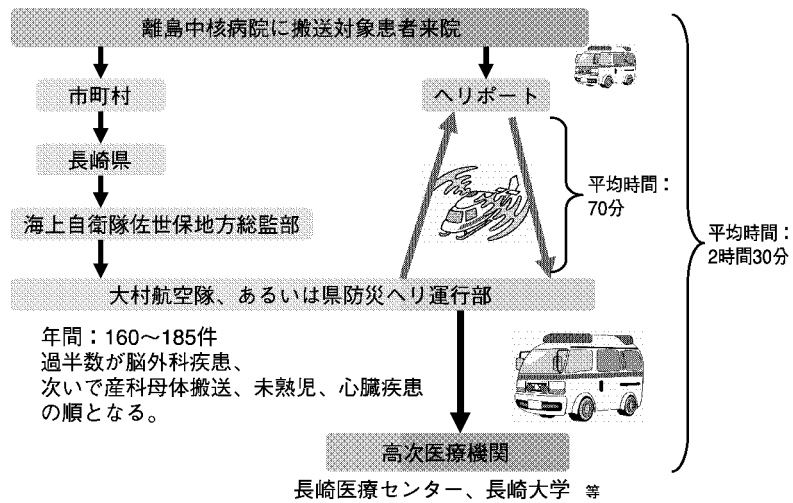
医学科三年 北村 浩晃

第4回家庭医療セミナーが7月29日から31日にかけて長崎県五島市で開催されました。主催は長崎大学で、家庭医療の本質を理解し、そして離島や遠隔地の地域医療に貢献できる医療人を育成するために行われたこのセミナーには全国各地から31名の医学部学生、研修

医、医師が集まりました。日本において家庭医療学(Family medicine)という学問は欧米に比べて専門的なものではありませんが、日本でも徐々に患者さんの背景まで考えることが重要で、広い視野で患者さんを診るにより新たな見方ができると指摘されました。患者さんから生活歴や家族歴に加えた心理社会的な話も聞いて、主治医としての責任を持ち続ける医療をしていくべきだということでした。



ヘリコプターによる救急搬送システム



また、ミシガン大学で家庭医学科レジデントのChristine Kistlerさんの講義もあり、人・地域の愛しているから家庭医をやりたいと強くおっしゃっていました。長崎県内には、約55の有人島を含み、600余りの島があります。長崎の離島・へき地には無医地区(医療機関のない地域で、当該地域の中心な場所を起点として、概ね半径4kmの区域内に人口50万人以上が居住している地域であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区)が存在します。その無医地区は年々減少傾向

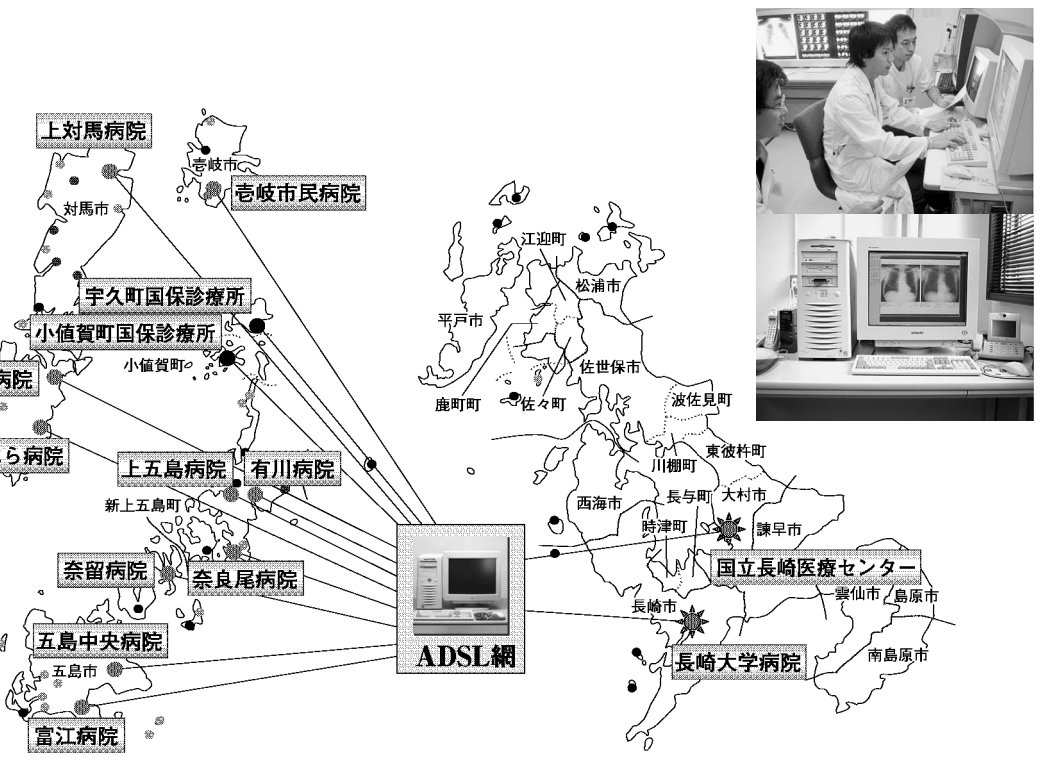
にあります。日本全国で914ヶ所あり、20万人以上が容易に医療機関を利用できない状態にあります(平成11年6月)。2003年における長崎の離島中核病院から高次医療機関へのヘリコプター搬送件数は167件で脳外科疾患が一番多く、次いで母体搬送、循環器疾患となっています。ヘリコプターによる救急搬送は情報のやりとりが大変で、高次医療機関まで搬送されるまでに平均で2時間30分かかります。離島では過疎と高齢化が深刻で、高齢者医療、歯科医療が問題となっています。離島における臨床研究の発展、離島勤務医師の支援体制の強化のため、平成16年5月に長崎県と五島市の寄付により、長崎大学大学院に「離島・へき地医療学講座」を開講し、その研究の拠点として「長崎大学離島医療研究所」が五島中央病院に設置されました。長崎県医学修学資金というものが、医学部を卒業後、離島・へき地の医療に就いて従事しようとする学生に修学資金を貸与するものです。貸与を受けた期間の2倍(専

門課程からの方は1.5倍)の期間(うち離島に2分の1以上)、知事の指定する医療機関に勤務することで返還が免除されます。

講義ばかりでなく、身体診察の実技練習もありました。頸動脈・甲状腺エコー実習では頸動脈の内・中膜複合体IMT(intima-media thickness)を計測したり、甲状腺の診察を行いました。またマネキンを使った婦人科内診、耳鏡や眼底鏡で診察、腹部超音波検査の基本手技がありました。一番興味深かったのは手術の際のガウンテクニックの練習でした。清潔と不潔の部分の境界をつけて、着美にガウンを着たり、手袋を装着するのに練習が必要だと感じました。

研修の最後の日には五島にある病院や診療所を見学しました。下五島には五島中央病院という中核病院があります。平成14年2月に病院が新しくなり、医師30名を含む約280名が働いています。離島の中核病院という特性から画像システムとヘリコプターによる救急搬送システムなどの特徴があります。山内診療所勤務されている診療所長の宮崎昭行先生は、DTCの先生で、時間があると地域に密着した家庭医の必要性を強く受け止めた

遠隔診断支援システム 長崎県離島医療情報ネットワーク(長崎県マルチメディア・モデル医療展開事業)2001~2002



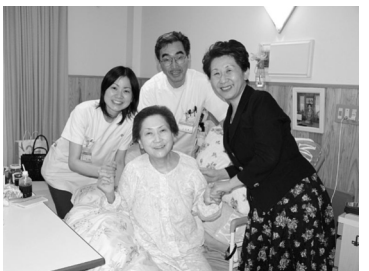
緩和ケア実習

～大分ゆふみ病院～



医学科 6年 岸川 優紀

私は6年の選択実習で緩和ケア実習を選択しました。緩和ケア実習では、大学病院の緩和ケアチームでの実習と、外病院での実習を2週間行います。私は5月15日から18日までの4日間、大分県にある大分ゆふみ病院という日本では珍しい独立型ホスピスで実習をさせていただきました。



患者さんと御家族と

1年前の写真もありました。様々な場所を訪れ、女性の生き方として素晴らしいお話を聞かせて頂き、とても憧れました。その方が病氣について話された言葉です。「癌になつてこうして倒れたけれど、やっとゆつくり孫に話をする時間が持てるようになりまして。これまでは、いつも外に出ていたから孫にもゆつくり話することもなかったけれど、いろんな話を聞かせて孫が言ってくれました。その時間を今、与えてもらつたと思つています。最期という時をどう生きるかを考え、生きる時を与えてくれる場所がホスピスなのです。どう死ぬかではなく、どう生きるか、この言葉の意味を実感させられた時でした。きれいに染められた髪が少し伸びて来た頃、美容師として働かれています。お孫さんが大きな鏡を持って整髪に訪れました。

「一緒に揺りかご」
緩和ケア病棟では最期を生きる場所として、患者さんは様々な希望を持っていらつちやいます。娘の結婚式に出ることが目標、妻と海外旅行に行きたい、そんな患者さんの希望を叶えるサポートをする医療でもあります。しかし、実際には患者さんの体調で諦めざるを得ない時もあります。その時に、一緒に気持ちを寄り添うことが大切だと教わりました。花嫁姿の娘さんと病院で記念撮影、海外ではないけれど、奥さんと一緒に近くの温泉旅行へ、そのサポートをする。「患者さんの気持ちを揺らぎにゆらゆらと一緒に揺らぎを、一緒に諦められる気持ちを持つことが緩和ケアに携わる医療者には必要だと思う。」その言葉を聞き、頑張りないうちの息子を寄り添うということの重要さを感じました。

「死生観を持つ」
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん



2006 夏 長崎から来た

●大分ゆふみ病院
現在、日本にあるホスピス緩和ケア病棟の153ヶ所のうち、独立型ホスピスは3病棟のみです。その独立型ホスピスの一つが大分ゆふみ病院です。ゆふみ病院は大分県の緑に囲まれた場所に平成13年に開院しました。24床のベッドは全て個室で、家族と一緒に暮らせるスペースも用意されています。山岡院長先生をはじめとして3人の医師と22名の看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、ソーシャルワーカー、ボランティアの方々によるチーム医療がなされており、研修医や実習生も受け入れられています。患者さんは大分県内の病院から紹介された方がほとんどですが、県外から希望して来られる方もいます。

●実習内容
朝8時半からの全体カンファレンスより毎日の実習が始まりました。看護師さんは8時には病院へ出勤され、担当患者さんの一晩の様子を把握されます。カルテには身体所見はもちろんですが、患者さんの一言一言、その時の気持ち、様子が細かに書かれています。緩和ケア病棟は癌の末期の患者さんばかりのため、実習生を担当に付かせることが患者さんの体力的にも精神的にも負担になる場合があります。しかし、「患者さんと接さずには学べないじゃない。」という言葉とともに山岡院長先生は「おはようございます。こちら佐賀から来た学生さんです。遠い所からでしょ。いろいろ話聞かせてやってください。ね。」と怒濤のように各病室を回られ、患者さんを紹介して頂きま

した。ホスピスには死と向き合っているという重い雰囲気があるのではなにか、という私の予想は見事にはずれ、患者さんは笑顔で迎え入れてくださいました。患者さんのベッドの横にはいつも、家族用の椅子の他にもう一つ、椅子が置いてありました。そこにはあらゆるスタッフが腰をかがめ、患者さんのお話を楽しんだり、患者さんの趣味や残念ながら天気が悪く、私は庭での時間を楽しむことができませんでしたが、とても気持ちの良い散歩コースとなつていました。

●看護士さんによる家族のケア
ゆふみ病院の実習では山岡院長先生から話を聞かせて頂きました。患者さん、3人の先生方、看護師長さん、ソーシャルワーカーさん。それぞれの視点からの医療に対する思いは、私にとって貴重なお話でした。ゆふみ病院で出会った方々のお話を紹介したいと思います。

●一緒に揺りかご
緩和ケア病棟では最期を生きる場所として、患者さんは様々な希望を持っていらつちやいます。娘の結婚式に出ることが目標、妻と海外旅行に行きたい、そんな患者さんの希望を叶えるサポートをする医療でもあります。しかし、実際には患者さんの体調で諦めざるを得ない時もあります。その時に、一緒に気持ちを寄り添うことが大切だと教わりました。花嫁姿の娘さんと病院で記念撮影、海外ではないけれど、奥さんと一緒に近くの温泉旅行へ、そのサポートをする。「患者さんの気持ちを揺らぎにゆらゆらと一緒に揺らぎを、一緒に諦められる気持ちを持つことが緩和ケアに携わる医療者には必要だと思う。」その言葉を聞き、頑張りないうちの息子を寄り添うということの重要さを感じました。

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●大分ゆふみ病院
現在、日本にあるホスピス緩和ケア病棟の153ヶ所のうち、独立型ホスピスは3病棟のみです。その独立型ホスピスの一つが大分ゆふみ病院です。ゆふみ病院は大分県の緑に囲まれた場所に平成13年に開院しました。24床のベッドは全て個室で、家族と一緒に暮らせるスペースも用意されています。山岡院長先生をはじめとして3人の医師と22名の看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、ソーシャルワーカー、ボランティアの方々によるチーム医療がなされており、研修医や実習生も受け入れられています。患者さんは大分県内の病院から紹介された方がほとんどですが、県外から希望して来られる方もいます。

●実習内容
朝8時半からの全体カンファレンスより毎日の実習が始まりました。看護師さんは8時には病院へ出勤され、担当患者さんの一晩の様子を把握されます。カルテには身体所見はもちろんですが、患者さんの一言一言、その時の気持ち、様子が細かに書かれています。緩和ケア病棟は癌の末期の患者さんばかりのため、実習生を担当に付かせることが患者さんの体力的にも精神的にも負担になる場合があります。しかし、「患者さんと接さずには学べないじゃない。」という言葉とともに山岡院長先生は「おはようございます。こちら佐賀から来た学生さんです。遠い所からでしょ。いろいろ話聞かせてやってください。ね。」と怒濤のように各病室を回られ、患者さんを紹介して頂きま

した。ホスピスには死と向き合っているという重い雰囲気があるのではなにか、という私の予想は見事にはずれ、患者さんは笑顔で迎え入れてくださいました。患者さんのベッドの横にはいつも、家族用の椅子の他にもう一つ、椅子が置いてありました。そこにはあらゆるスタッフが腰をかがめ、患者さんのお話を楽しんだり、患者さんの趣味や残念ながら天気が悪く、私は庭での時間を楽しむことができませんでしたが、とても気持ちの良い散歩コースとなつていました。

●看護士さんによる家族のケア
ゆふみ病院の実習では山岡院長先生から話を聞かせて頂きました。患者さん、3人の先生方、看護師長さん、ソーシャルワーカーさん。それぞれの視点からの医療に対する思いは、私にとって貴重なお話でした。ゆふみ病院で出会った方々のお話を紹介したいと思います。

●一緒に揺りかご
緩和ケア病棟では最期を生きる場所として、患者さんは様々な希望を持っていらつちやいます。娘の結婚式に出ることが目標、妻と海外旅行に行きたい、そんな患者さんの希望を叶えるサポートをする医療でもあります。しかし、実際には患者さんの体調で諦めざるを得ない時もあります。その時に、一緒に気持ちを寄り添うことが大切だと教わりました。花嫁姿の娘さんと病院で記念撮影、海外ではないけれど、奥さんと一緒に近くの温泉旅行へ、そのサポートをする。「患者さんの気持ちを揺らぎにゆらゆらと一緒に揺らぎを、一緒に諦められる気持ちを持つことが緩和ケアに携わる医療者には必要だと思う。」その言葉を聞き、頑張りないうちの息子を寄り添うということの重要さを感じました。

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

●死生観を持つ
医療者、特に医師に患者さんが求めることは「安心」でもあります。不安があれば、医師と患者さんとの信頼関係も築くことができません。ホスピスには宗教的信仰を持つてこられる患者さん

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

1、心身の不快な症状の緩和につとめます。
2、家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
3、様々な職種とボランティアがチームを組んでケアにあたります。
4、大分県の緩和ケアの発展に寄与します。
餅つきや花見、夏祭りなどの毎月の季節行事、

My Way...



「或いは「もしも」だなんてあなたに嫌なだけの時を遡るチケットがあれば欲しいな。20年間のさだ氏の思いは少なからず届かっているのだと思う。

後編 歌手 さだまさし

「あなたの大切な人の笑顔を思い出してください。そして、その笑顔を守るためにあなたに何が出来るか考えてください。平和を訴えるとかではなく、このコンサートの間は、みんなそのことを考える時間であつて欲しい。」広島原爆忌の8月6日にもう一つの被爆地長崎で歌うことにより、平和の大切さを考えて欲しい、1987年よりさだまさし氏が始めた無料コンサート「夏、長崎から」20年目の今年、そのコンサートは一旦、幕を閉じることとなった。20年間の延べ動員数は50万人、加山雄三氏など合計131組のゲストが駆けつけた。

さだ氏は長崎市出身である。被爆地として平和を考える機会がないことに疑問を持ち、それならば自分自身で平和を訴えたい、始められた無料コンサートである。平和を訴えていない、ただのコンサートではないか、といった批判もあった。しかし、さだ氏は冒頭の言葉を毎年訴え、身近なところから平和を実感して欲しい、考えて欲しい、

「或いは「もしも」だなんてあなたに嫌なだけの時を遡るチケットがあれば欲しいな。20年間のさだ氏の思いは少なからず届かっているのだと思う。

「或いは「もしも」だなんてあなたに嫌なだけの時を遡るチケットがあれば欲しいな。20年間のさだ氏の思いは少なからず届かっているのだと思う。

最終回

クーポンを頂きました。

ごごがうまいよ 医大生!

鉄板創作レストラン Riff

女の子なら一度は行ったことがあるはず!高木瀬マルキョウの斜め前、閑静な一角にある鉄板創作レストラン「Riff」を紹介致します。個人的には何回もお世話になっているこの店ですが、今回もやはり店の前に着くや否や、いつもの「Riff空間」にすう〜と引き込まれていくようでした。駐車場入り口の大きなイタリ国旗、広々としたオープンテラス、それらを囲む木々。店舗に多数ある大きなガラス張りの戸もまた、開放的な雰囲気を感じさせます。日中は外から

女の子なら一度は行ったことがあるはず!高木瀬マルキョウの斜め前、閑静な一角にある鉄板創作レストラン「Riff」を紹介致します。個人的には何回もお世話になっているこの店ですが、今回もやはり店の前に着くや否や、いつもの「Riff空間」にすう〜と引き込まれていくようでした。駐車場入り口の大きなイタリ国旗、広々としたオープンテラス、それらを囲む木々。店舗に多数ある大きなガラス張りの戸もまた、開放的な雰囲気を感じさせます。日中は外から



グを中心とした創作料理を、すべて手作りというこだわりをもって提供しているRiffですが、実は、その大元にあるのは薬品会社。薬品を作る立場から「体の健康は食から」という発想でこのRiffが誕生したとのこと。使用する食材もすべて無添加で、化学調味料も一切使っていないという徹底振り!自慢のハンバーグはRiffの姉妹店である焼肉店(ぐりぐり)の牛肉を100%使用し、毎日遅くまで手でこねて作っているそうです。ふわ〜とした食感と噛んだ途端にあふれ

グを中心とした創作料理を、すべて手作りというこだわりをもって提供しているRiffですが、実は、その大元にあるのは薬品会社。薬品を作る立場から「体の健康は食から」という発想でこのRiffが誕生したとのこと。使用する食材もすべて無添加で、化学調味料も一切使っていないという徹底振り!自慢のハンバーグはRiffの姉妹店である焼肉店(ぐりぐり)の牛肉を100%使用し、毎日遅くまで手でこねて作っているそうです。ふわ〜とした食感と噛んだ途端にあふれ

PEOPLE NOW



今回は昨年7月より開設した佐賀大学学生カウンセラー相談窓口のカウンセラーとして、毎週水曜日に鍋島キャンパスにお越しいただいている安田郁先生にお話を伺いました。

1. なぜカウンセラーになろうと思われたのですか
やっぱり、人に興味があつたというのが一番の理由じゃないかなと思います。高校の頃から、他人にも興味があるし、自分自身に対しても、「自

分つてどういう人間なのか」という興味があつて、それがカウンセラーへの最初のきっかけです。でもその時は「カウンセラーになろう」とまでは思わなかったです。(法学部の)大学を出る頃になって就職試験も受けなければいけないし、病院の一角ということもあるのだから、とてもしょいと思ひました。

2. 佐賀大学の印象は
以前は「つとつと福岡にいて、去年の7月から週に一回佐賀に通うようになりまして、佐賀はのどかです。大学は、キャンパスがきれいですね。あの芝生の丘もきれいに整備されているし、病院の一角ということもあるのだから、とてもしょいと思ひました。

3. 学生時代について
法学部の時は自分を模索している時期で、何をしたらいいかが分からなかったら、大学の授業

4. カウンセリングの際に特に心がけていること
自分に素直であること。正直であることかな。やっぱり、自分を偽っていると相手も話してくれないし、素直に相手の話を聴かないと思うので。

5. 悩みを持ったときの良い解決方法を教えてください
自分の師匠となる人に相談するのは良いことですね。私もカウンセラーのことで悩みがあるときに相談に行きますが、頼りになりますし、バックアップしていただけるので、あと、遊ばないこと。あつた、遊ばないこと。あつた、遊ばないこと。

6. 悩みを聴く側として大切なことは何ですか
まずは相手の話を聴くことです。相手の意見を肯定するとか聞き入れるということではなくて、とにかく聴くこと。まずは相手が何を訴えようとしているのかを理解しないと、こちらも何も言つてあげられませんからね。そして、それはすぐに理解できることじゃないので、自分が理解できているのかをそのやり取りの中で確認していくんです。

7. これからの夢、目標
この仕事に関して言えば、頑張ってもつと経験を積んで、悩んでいる人の役に立てばと思つています。より人の役に立てるカウンセラーになりたいですね。あと、小さい頃から画家になりたいというのが夢でした。今でも頭の片隅では画家になりたいという夢があります。

8. 学生へのメッセージ
今は悩みがあるという

佐賀大学学生カウンセラー 安田 郁 先生
略歴
1995年 九州大学法学部 法律学科卒業
2005年 九州大学大学院 修了 人間共生システム専攻 心理臨床学コース
2006年 臨床心理士

2. 趣味
高校時代にバンドをしていて、大学の時にはバンドはしていません。たいてい、ギターは弾いていました。

3. 学生時代について
法学部の時は自分を模索している時期で、何をしたらいいかが分からなかったら、大学の授業

4. カウンセリングの際に特に心がけていること
自分に素直であること。正直であることかな。やっぱり、自分を偽っていると相手も話してくれないし、素直に相手の話を聴かないと思うので。

5. 悩みを持ったときの良い解決方法を教えてください
自分の師匠となる人に相談するのは良いことですね。私もカウンセラーのことで悩みがあるときに相談に行きますが、頼りになりますし、バックアップしていただけるので、あと、遊ばないこと。あつた、遊ばないこと。

6. 悩みを聴く側として大切なことは何ですか
まずは相手の話を聴くことです。相手の意見を肯定するとか聞き入れるということではなくて、とにかく聴くこと。まずは相手が何を訴えようとしているのかを理解しないと、こちらも何も言つてあげられませんからね。そして、それはすぐに理解できることじゃないので、自分が理解できているのかをそのやり取りの中で確認していくんです。

7. これからの夢、目標
この仕事に関して言えば、頑張ってもつと経験を積んで、悩んでいる人の役に立てばと思つています。より人の役に立てるカウンセラーになりたいですね。あと、小さい頃から画家になりたいというのが夢でした。今でも頭の片隅では画家になりたいという夢があります。

● Studio Patis select
Riffの建物の2階にある同系列のエステ。美しくなりたい!思いを心からサポートしてくれます。是非どうぞ。(竹内・竹下)

USGOSは、今年7月に部活の申請が通ったばかりの、新しい部活動です。正式な名称はUSMLE Studying Group of Sagaとい

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

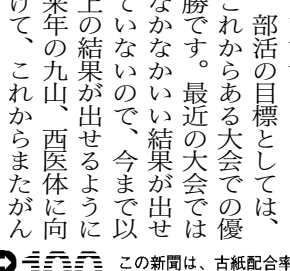
部活動紹介

USGOSは、今年7月に部活の申請が通ったばかりの、新しい部活動です。正式な名称はUSMLE Studying Group of Sagaとい

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用

USGOSに参加してみたいという方は、ぜひ一度、ご連絡ください。

USGOSの活動は、毎週火曜日の夜の8時から、2時間程で行っています。内容は、英語で書かれた教材を使用



この新聞は、古紙配合率100%の再生紙を使用しております。

新聞編集委員

垣原恒彦教授(編集委員長)
池田豊子教授、内川洋子助教授、尾崎岩太助教授
磯田広史、岸川優紀、齊郷智恵美、酒井亜輝子(医6)、河田康祐、田中恵(医5)、佐藤奈緒、竹内美奈子、竹下綾子、外山由貴(医4)、梅田恵理子、北村浩晃、小池このみ、日高駿(医3)、平川睦美、村田典子、吉本麻美(看2)、徳田悠希子、横山加奈子(医1)
棚町豊二(マルチメディア支援室) 東家廣典、坂井光太郎(学生サービス課職員)
要望などの連絡先
学生サービス課学務系係 坂井 sakaik@cc.saga-u.ac.jp

国内外でのさまざまな医学・医療の体験記を読みながら、医師を目指す若い学生諸君の確かな成長を感じています。
「My Way」と「たびごちすごろく」が最終回を迎えました。担当

この新聞は、古紙配合率100%の再生紙を使用しております。